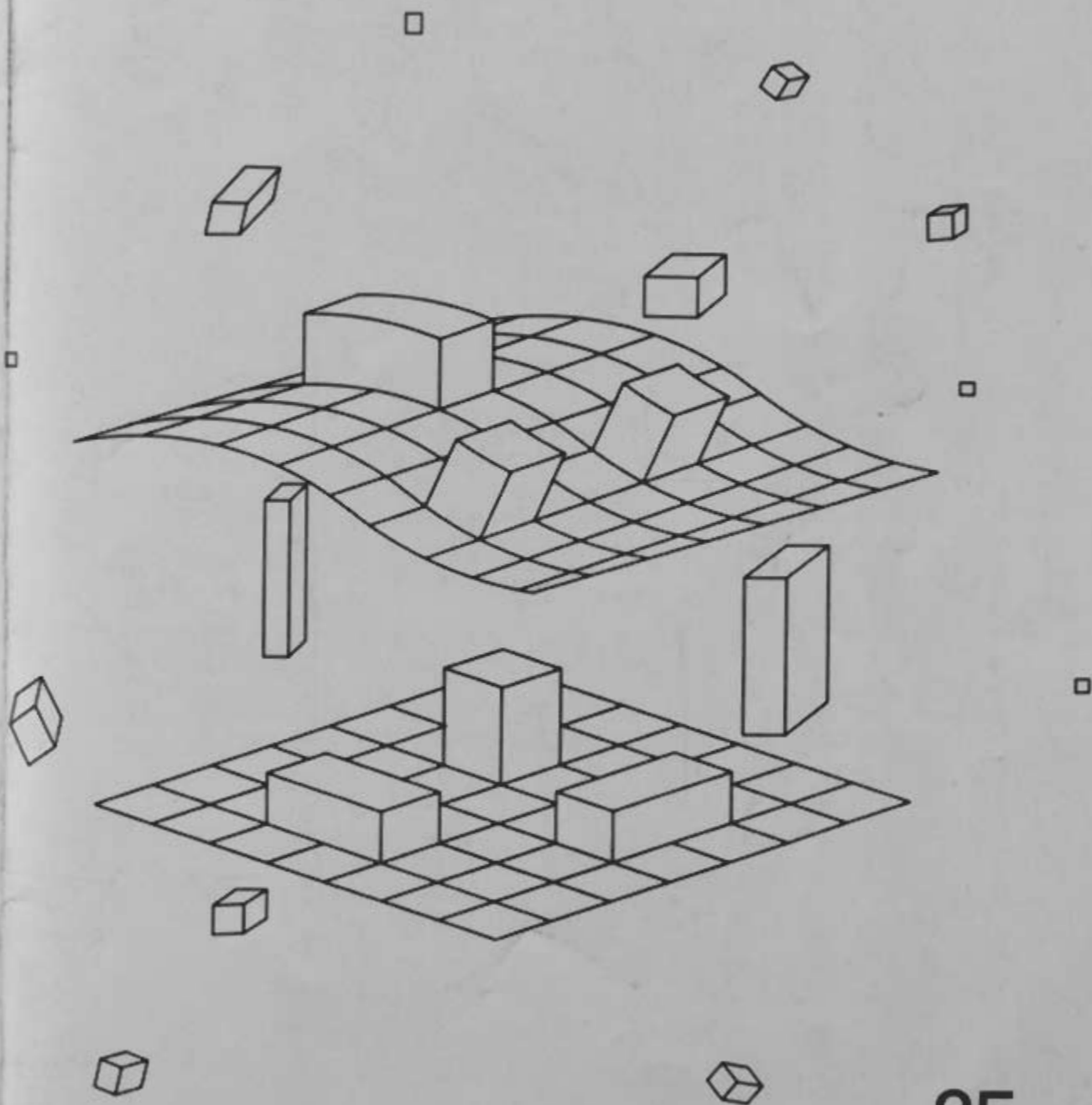


# ITSUMIKAI



NO. **25**  
平成10年版

# 目 次

五三会のみなさんへ	3
卒業生へ贈る言葉	4
五三会榮譽賞受賞	6
五三会顕彰制度	12
第24回設計コンペ入選発表	14
第24回審査講評	19
同窓生の作品紹介	22
新社会人の声	24
環境デザイン学科・土木工学科コース紹介	26
ゼミ紹介	28
1997年度卒業予定者一覧	32
広島工業大学建築・環境系教職員名簿	34
五三会活動報告	36
五三会収支決算報告	37
五三会会則	38
編集後記	40

## 五三会の皆さんへ



五三會會長  
中島伸夫 (S49年卒)

この1年、銀行や証券会社の倒産、公共事業の大幅削減、省庁再編成が打ち出されるなど、社会構造そのものが大きく変革された年となりました。会員の皆様もそれぞれ大変な状況におられることと思いますが、時代をしっかり見据えて、焦らず慌てず進んで行きましょう。

さて、私は平成7年度から会長を勤めさせて頂いておりますが、この3年間を振り返りつつ、五三会の近況をお伝え致します。

ことある毎にご案内していますように、母校の建築学科は既に平成5年4月に改組転換され、「環境学部環境デザイン学科」と「土木工学科建築工学コース」へと発展的に受け継がれました。そして、平成9年3月には、両学科の第一期生が社会へと巣立ってゆきました。

「五三会」では、このような母校の体制の変化を受けとめ、両学科の卒業生にも本会に入会して頂き、新たな風を吹き込みたいと考えました。そこで平成8年4月の総会で、会称を従来の「建築学科同窓会：五三会」から、両学科を含めた「建築・環境系同窓会：五三会」と修正したうえで、関連する会則の改訂を行いました。我々のこうした動きを受けて、両学科の卒業生は、五三会に入会して共に社会で手を携えてゆくことになりました。

このような状況で迎えた平成9年4月の総会・懇親会は、第一期生を迎えた区切りの会となりました。両学科の先生方にも加わって頂いた約130名の参加により、五三会の新しい出発にふさわしい雰囲気での懇親会が開かれました。

先の会則改訂の際、新しく五三会の顕彰制度（五三会栄誉賞）を設けたことは第24号の

会報でお伝えした通りですが、この懇親会の場で、村上徹氏（S47年卒）、石井敏明氏（S48年卒）、西宮善幸氏（S50年卒）、新田貴太男氏（S51年卒）の4名の方を表彰させて頂きました。また石田及び新田両氏には、同日、受賞記念講演をして頂きました。

その折り、この顕彰を契機に、母校の学生に対して五三会から賞を出すことも考えて欲しいという要望がありました。そこで新たに、優れた卒業設計に対して「五三会学生大賞」を授与することとし、時期が前後するものの、両学科の第一期卒業生からその対象として表彰することとしました。第一回の受賞対象者は、設計部門では土木学科の岩本賀伴氏、環境デザイン学科の細谷有野氏、論文部門では環境デザイン学科の山下真麗子氏に決まり、平成9年12月6日に表彰式を行いました。なお選定委員は、菅原辰幸教授（S44年卒）及び、母校での非常勤講師の経験者ということから、渡辺武彦（S44年卒）、村上徹（S47年卒）、有馬秀宣（S48年卒）、西宮善幸（S50年卒）、北野俊二（S51年卒）の各氏にお願い致しました。

この3年間、五三会にとっては大きな変革の時であったと思います。しかし、五三会役員の皆様をはじめ、多くの方々のお借りしながら、何とか乗り切れたのではないかと考えています。これからも、母校の発展と会員各位の連携が益々強まってゆくよう、「五三会」の活動の輪を大きく広げて行きたいと思っておりますので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

## —この春の卒業生へ、そして皆様へ—



環境デザイン学科  
教授 森保洋之

### ■この春の卒業生へ

環境デザイン学科の2回目の卒業生諸君、また建築学科、土木工学科建築工学コースの卒業生諸君、ご卒業おめでとうございます。ご卒業に当り、一言ご挨拶を申し上げます。

それぞれのご研鑽の結果、卒業されることに対して、心より敬意を表します。と共に皆さんに対して惜しまずに支援された、保護者の方々、ゼミやクラブの仲間、そしてゼミや他の先生方に対して感謝の気持ちを持って頂きたいと考えます。“生きている自分と生かされている自分”と云うことの狭間を認識すべきであると思います。このことは、今後の色々の場面でお考え頂けるとよいと考えます。自分にこだわって生きること、日常の大きな流れに身を委ねて生きることについても、その狭間を考えるべきであると思います。両者の間のどこかに皆さん一人一人が生きられるところがあると思うからです。

卒業は、勉学の終了ではなく、次のより広い勉学への大いなる出発点としての“意義深い節目”であると考えます。大学で学んだ多くのことをベースに、これには横糸や縦糸となりそうなことがあると思いますが、これらに今後得られる多くのことも加えて織り込み、皆さんそれぞれの生きた織物をこれからおつくり頂きたいと考えております。明日からは、社会人としての新たな勉学のスタートです。それぞれの個性の溢れた織物づくりとなるよう、ご精進下さい。期待致しております。その中で、相談ごとがあれば、私どもの可能な限りの支援は致したいと考えています。

さて“環境デザイン”と云う分野は、新しい分野です。大学で学んだものを礎に、仲間と共に切磋琢磨し、それぞれで究めて頂きたいと思ひます。幸い、建築・環境系同窓会である五三会には多くの立派な仲間がいます。早く仲間入りして、多くを学ばせて頂き、大いに語らい、共に育てて欲しいと思ひます。

最後に皆さんが、健康に留意され、社会に貢献されることを期待致し、挨拶とします。ご卒業、本当におめでとうございます。

### ■五三会の皆様へ

日頃、多大なご理解とご協力を賜り、誠に有難う存じます。この会誌に寄せて大学や環境デザイン学科の近況について以下に書かせて頂きます。①1期生に引き続き2期生につきましても、社会の不況の中で懸念されました就職・進学は、お蔭様にてよい結果に収まりました。五三会の皆様には求人・採用にて大変にお世話になり有難うございました。②五三会におかれては顕彰制度の1つとして学生大賞も設けて頂き、第1回に続き第2回についても鋭意ご選考中と伺っております。誠にありがとうございます。③環境デザイン学科の教育課程を4年間の実績を踏まえて平成9年度より多少改定致しました。居住環境（建築）デザイン系を中心に、自然環境系、環境情報系よりなる構成となりました。④その自然環境系を専門とする新任の教員が平成9年4月よりみえています。小林芳正教授と新田昌弘教授のお二人です。また語学教育の三木育代講師もみえています。⑤日本私学振興財団の平成9年度「特色ある教育研究の推進」については、学科の提案した「体験を礎とした環境デザイン（設計）教育の研究」が採択され、活発に推進しています。⑥環境デザイン学科の1期生と同様に2期生も、卒業設計や設計コンペ作品および研究論文において数々の代表や受賞者を出しており、また五三会コンペにおいても幾つかの賞を頂いており、有難いことと考えております。⑦平成9年4月に環境学部の上に、開設された大学院環境学研究科・地域環境科学専攻（修士課程）では11名の院生が“オムニバス方式の授業”等により勉学致しています。⑧環境学部は現在は環境デザイン学科のみですが、新学科の増設を具体的に計画中であり、極めて近い将来、複数学科となるよう検討しています。

以上、近況の幾つかについて、簡単にて恐縮ですが報告させて頂きました。

最後になりましたが、五三会の皆様様の益々のご健勝と、ご活躍・ご発展を心よりお祈り致す次第です。感謝

## 土木工学科建築工学コースの卒業生へ



土木工学科 建築工学コース  
教授 高松 隆夫

土木工学科建築工学コースの卒業生に心より卒業のお祝いを申し上げたいと思います。コース所属教員が少ないためにきめ細かいサービスを提供できなかったことにつきましては深くお詫び申し上げます。

コースとして2回目の卒業生を無事に出すことができたことを教員一同大変うれしく思っています。特に、就職につきましては当初の予想を遙かに越える厳しい状況でしたが、ほとんどの卒業生が希望どおりの職種に内定できたことは五三会会員の社会における高い評価の賜物であることと深く感謝しております。今後の卒業生も先輩に負けないよう活躍してくれることを期待しております。皆さんの評判が後に続く後輩の就職に大きな影響を与えることを肝に銘じて日々努力されることを切望いたします。

学生の就職先は、コースとしては初めてでありました昨年度の卒業生の状況とほぼ同じような傾向でした。総合建設業に60%、住宅関連に10%、設計事務所に10%、その他に20%となりました。また、進学希望者は7名おり、本学の大学院に4名、他大学に1名合格しています。今後も同様の傾向が続くと予想しています。特に、構造設計希望者が増加していますので、設計事務所の方々には益々のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、平成9年度はコースにとりまして大きな節目の年となりました。昨年度までは土木工学科の中の建築工学コースという全国でも珍しいコースのために、入学生のなかにははたして本当に建築の内容を勉強できるかどうか不安に感じている者がいましたが、今年度から学科名称が建設工学科に変更になり、建築工学コースに対してほとんど違和感を持つ者はいなくなりました。4年後から建設工学科建築工学コースの卒業生として社会に巣立っていきます。土木工学科建築工学コース卒業生同様ご支援下さるようお願いいたします。

現在、本大学におきまして少子化に伴う入学受験者数の減少対策の一環として新学科増設あるいは改組転換等の検討が行われていま

す。今年度に建設工学科として生まれ変わりましたが、更に変更となるかもしれません。しかしながら、本学の建築系の教育研究は学科名称やコース名に拘らず、今までと本質的にはかわることはないと考えています。卒業生の社会における活躍を耳にする度にその意を強くしています。

今まで行ってきた教育研究の成果を基礎として、社会のニーズに充分に対応できるようにカリキュラムを整備して、社会で立派に活躍できる建築技術者を多数養成できるコースになるよう努力していく所存ですので宜しくご支援下さい。

卒業生は今まで培ってきた建築の専門分野における実力を存分に発揮して、立派な仕事をして下さい。また、多忙な毎日を送ることになり、時には自分自身を見失い将来に対して希望が持てなくなることもあるでしょう。その時こそ、先生、友人、先輩等を思いだし、気楽に相談して下さい。

卒業生並びに五三会会員の皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

# 『五三会栄誉賞』 授与!!

このたび、五三会の会員である次の4氏の作品が一般社会および建築会に於いて高く評価され、以下の各賞を受賞されました。

今回の各氏の受賞は、同窓生の誇りであり、同窓会である五三会の社会的地位を高めることに寄与するものであります。よってその功績を称え『五三会栄誉賞』として表彰することとなりました。



左より受賞の村上、石田、西宮、新田の各氏

受賞者	受賞名	作品名
西宮 善幸	日本建築学会作品選奨	『三良坂町立灰塚小学校』
石田 敏明	J I A 新人賞	『NOSハウス』
新田 貴太郎	J S C A 努力賞	『HEART LINKS』
村上 徹	芸術選奨文部大臣新人賞 (美術部門)	『庵治町役場』

日本建築学会作品選奨：主催 財団法人日本建築学会

J I A 新人賞：主催 財団法人新日本建築家協会

趣旨：日本建築学会の目的に照らし、建築に関する総合的な観点から高い水準を有する建築作品を広く会員より募集し、選考の結果、採択された作品の概要を毎年1回刊行される『日本建築学会作品選集』に掲載して、全会員に紹介することにより優れた建築作品の発表の場をつくり、これらの作品の記録に役立てるとともに、会員の制作活動の向上に資することを目的とするものである。

趣旨：すぐれた着想と感動を呼ぶ造形、合理精神にもとづく機能性の追求、自然、風土地域的特性を配慮し、時代精神を反映した、優れた建築を顕彰することは、社会に建築のあるべき姿を知らせることであり、職能団体の使命であると考えられる。そこで、新日本建築家協会では、この精神に基づき才能に恵まれ、真摯な努力を重ねている新進の建築家を見出して、これを表彰し、わが国建築文化を一層の向上に寄与することを目的として〈新人賞〉を設定しているものである。

対象：日本建築学会会員により設計された建築作品で、建築規模、用途は問わない。

建築作品には、住宅設計、修景設計、広場設計、団地設計等、都市デザイン的な領域をも広く含むものとする。

対象：応募者は応募時点までに本賞並びに特定の他の賞を受けたことのない、専門の建築家で国籍は問わない。上記特定の他の賞とは、日本芸術院賞、同窓賜賞、芸術選奨文部大臣賞、芸術選奨新人賞、日本建築学会作品賞、建築業協会賞、朝日賞、毎日芸術賞、同特別賞、日本芸術大賞、吉田賞、村野賞のことを言う。

## JSCA努力賞：

主催 財団法人日本建築構造技術者協会

趣旨：構造的な創意工夫により、優れた建築を生み出した構造設計や技術開発をした会員を表彰するものである。作品の規模の大小を問わず、その成果が、建築会や社会に良い刺激を与え、構造設計者の励みとなる作品や業績を求めているものである。

建築がその時代・社会的役割を充分果たしていくためには、構造家のもつ優れた資質が要求され貢献している。その重要な役割を顕在化し、次の世代を刺激し活性化を図り、また構造家の活動を社会的に顕示してゆくことが日本建築構造技術者協会の顕彰制度設立の目的である。

対象：顕彰の対象としては、構造家の活動において独自性をもち、かつその波及効果が大きい作品または業績に貢献した人とする。

### (1)作品

構造的な創意工夫に注目されるもの。構造技術自体または構造と建築計画設備設計等との整合性により優れた建築を創出したもの。

### (2)特殊空間

創意工夫による特殊な構造により独自の空間を創出し、さらにその文化的社会的波及効果の顕著なもの。

### (3)開発

新しい、または特殊な構造材料、構造システム、構造ディテール等を開発し、それによって独自の空間を創出可能にし、芸術的、技術的または経済的にその効果の顕著なもの。

### (4)社会的貢献そのほか

構造家の社会的活動を、より活性化するために多大の効果をもたらした貢献、そのほか、構造に関連した活動で社会的、文化的功勞の顕著なもの。

## 芸術選奨文部大臣賞新人賞・美術部門：

主催 文化庁

趣旨：芸術各部門において、優れた業績をあげた者またはその業績によってそれぞれの部門に新生面を開いた者を選奨し、これに芸術選奨文部大臣賞または芸術選奨文部大臣新人賞をおくることによって芸術活動の奨励と振興に資する。

### 部門

(1)演劇（歌舞伎・新派・新劇等の劇団、劇作家、演出家、演技者、舞台美術家等）

(2)映画（劇映画・記録映画等の演出家、脚本家、撮影者、演技者等）

(3)音楽（邦楽・洋楽・オペラ等の演奏団体、演奏家、指揮者、作曲家、演出家、舞台美術家等）

(4)舞踊（邦舞・洋舞・バレエ等の舞踊団、舞踊家、演出振付家、舞台美術家等）

(5)文学（小説・短歌・俳句・詩・大衆文学・児童文学等の作家、翻訳家等）

(6)美術（絵画・彫刻・工芸・書・写真・デザイン・建築等の作家）

(7)古典芸術（雅楽・能楽・文楽・小曲等の演技者、演奏家等）

(8)放送（ラジオ・テレビのドラマ・ドキュメンタリー等の作家、演出家、演技者等）

(9)大衆芸能（落語・講談・浪曲・漫才・大衆演劇・ショー・ポピュラーミュージック・ミュージック等の作家、作曲家、演出家、演技者等）

### (10)評論等

①芸術評論家

②芸術活動に著しい貢献のあった者

対象：選考は、毎年、原則として1月中に行うものとし、選考の対象となる業績は、主として毎年の1月から同年12月までの間にあげられたものとする。

今回4氏の受賞の喜び他、広島工大卒業以後これまでの歩み、将来の展望等について熱く語っていただきましたので、皆様に御報告致します。

## 日本建築学会作品選奨を受賞して

西宮善幸建築設計事務所  
西宮善幸

工大を卒業して早いもので22年たちました。しかも、学生生活を含めると26年という長い年月を広島で過ごしています。年齢も当然のことながら40才半ばで、社会的には中年と呼ばれる年代になりました。が、建築の設計者にとってこの年齢はまだまだ若いほうだと言われており、今からますます建築がおもしろく造れるのではないかと、楽しみにしております。

今回、「三良坂町立灰塚小学校」で'97年度日本建築学会作品選奨を受賞しました。この受賞にあたり同窓会である五三会が、先輩である村上さん、石田さん、後輩の新田さんと共に、五三会栄誉賞を設け総会で表彰して祝っていただいたことに感謝し、大変喜ばしく思っております。建築の賞は他の分野と比較すると社会的認知が低いようで、あのような場所で祝っていただき、身の引き締まる思いで、五三会の存在と意義を改めて認識しております。

日本建築学会作品選奨について少し述べておきます。(設計に携わっていらっしゃる方に参考になるのでは) この賞は今年で3年目で、皆さんにはあまり馴染みがないと思います。学会がこの年の作品の発表の場である「作品選集」を設けており、この中より特に優れた作品に対し与えると規定され、作者を対象にするのではなく作品に重きをおいた賞となっております。内容的には、さまざまな視点をもって作品を選び出しており、地味な賞ですが、賞に対する評価、位置付けが定着し

つつあると思われまます。

私自身、何も意識する事なく気軽に申し込んだ結果であります。今回同窓会で表彰された皆さんが同世代であることを考えてみると、この年代にはこのようなチャンスがあると同時に、社会に対し関係を深め、影響をあたえてゆく時期だと実感しております。又、このことは才能、センス、コネも金も無い私にとって、一つ一つの数少ない仕事を大切に造りあげることと、今まで支えていただいた知人、同窓の方々の大切さ必要性をつくづく考えさせられる出来事でもありました。

設計に携わってあつという間の22年でした。いまだに建築というものを理解しているとはいえませんが、学生時代から夢見てきた、自分で設計したものを造っていくという夢を今まさに実現して、そのことを実感しております。誰にでも一生に何度かのチャンスがあります。それを自分のものにできるかどうかは、それまでになにを考え、思いづづけ、その時に実現できる力をいかに養っておくかによると思います。私自身も建築に対する考えが変わっていく部分、昔と少しも変わらない部分とが存在し、葛藤の中で設計をしております。今後も、私にとって一過程のこの賞を励みとして、より大きな夢を実現するために建築を造り続けたいと思っている、今日この頃です。



## JIA新人賞(日本建築家協会新人賞)を受賞して

㈱石田敏明建築設計事務所  
石田敏明

1996年「NOSハウス」でJIA新人賞を受賞しました。受賞前、JIA新人賞は建築規模の大小を問わず、また建築の完成度や洗練度で評価する賞ではなく建築の可能性を広げ、新しい価値観を社会に問う建築家の建築的行為に対して建築家が表彰される建築賞だと私は考えていました。ですから受賞した「NOSハウス」は北海道に建つギャラリー付きの小さな木造住宅ですがノミネートされた時、ひょっとしたら受賞する可能性があるのではと期待していました。その思いが通じて本当にうれしく思っています。審査員の方々からは「新人賞という名にふさわしい作品」という意味で、多少の稚拙さよりも新しい考えを打ち出しているものを探す。／作品個人の意思が明快に分かるものを選びたい。／いかなる条件の下でも自己の信念に基づくスタイルを変えずに飽くなきものへの追求を試みるタイプの建築家である。／いかなる条件の下でも自らの形態や空間をいかにピエアに表現しうるかにひたすら関心を抱いている。／地域に対して外側から切り込んで、激しい自然環境と向かい合う行為によって自らの作品を磨きあげた。」等々といった有り難い内容の講評を頂きました。このことは経済や政治によって容易に支配される危うく不確実な存在である建築を「建築」として社会の中で成立させるには建築をデザインする姿勢や行為の強さが不可欠であり、デザインのテクニクや表現の奇抜さではないということだと理解しました。

この住宅は外壁面の約4割がガラス面で被覆されています。北海道南部の道内では比較的温暖な場所に建っていますが真冬は零下になるところです。省エネルギー対策として高気密、高断熱が常識となっている寒冷地ではガラスを多用することは非常識であるといった批判も聞かれましたが、むしろ北海道在住の住むことに意識的な建築家達にとってはこういった建築は大歓迎だといわれました。その理由は北海道では建築の評価があまりにも性能面や利便性に偏りすぎていてデザインあるいは芸術が本来もっている人間の精神や感

覚に関わる部分を評価しようという姿勢が専門家も含めて希薄で、そういった状況にこの建築は一石を投じているからだと思いました。むろん建築にとって性能面や機能性は重要だと思いますが過度に進んでしまうと何か人間の身体に本来備わっている感覚に関わる部分を見落とす場合もあります。電脳住宅のようなすべて快適さがデータで裏付けされた人工環境のなかでの生活は人間にとって果たして理想的な住まいといえるのか、生きる強さを奪うことにならないか、と思うのです。このような建築的状況は北海道という地域に限らず日本全国で当てはまる事だと思います。

私事で恐縮ですが昨年、東京に家族の住まいをつくりました。5階建てのビルの4、5階をメゾネット形式にした住宅ですがプランのほぼ中心に2層吹き抜けの屋根と壁がガラスカーテンウォールで被覆された半外部的な土間のような空間をつくりました。文字通り外部に近い空間なのでよく言えば環境に敏感なセンサーのような役割を担っています。ここでは太陽の光や暖かさや青白い光の月光を受けとめ爽やかな風を迎え入れます。雨の降り具合、雪のつもる様子が手に取るように分かります。機能的には無駄なスペースといえるかもしれませんが豊かな自然とは無縁な都会にも僅かに残された自然を観察したり陽射しの変化を通して季節の推移や時間の経過を知る事ができるかけがえのない機能を超えたスペースだと思っています。夏、秋、冬を過ごした生活を通して住宅には性能や機能を超えた身体や精神に働きかける空間が必要だと実感しています。

## 私がJSCA賞に応募した訳

佑構造プラン  
新田 貴太男

「私共の扱う構造は、鉄も鉄筋もコンクリートも、タイルや石や金属パネルで覆われてしまうと一般社会の人達には見えなくなる、ということで、構造の貢献度は通常、評価の対象外となってきたきらいがある。

有名なスペインの構造家エドワード・トロハは「こうした目に見えない貢献は心の目で見ることができ、心に目の無い人には見ることができない」と述べている。しかし、現今の社会で「相手に心の目がない」と沈黙・侮辱・嘲笑の世界に逃避することは正しい生き方ではない、と思われる。そこは是非共、相手に心の目を開いて頂いて理解を深めて頂くことが必要であり、またそれだけの礼をつくした“働きかけ”を怠ってはいけなと言えよう。今回のJSCA賞という顕彰制度の制定も、こうした一般の人々にも見えるもの、理解してもらえらるるものを設定することに一面の大きい意義があると信じている」

(structure1989.7)

以上は「JSCA賞顕彰制度発足にあたって」と題して当時の顕彰委員会委員長であった木村俊彦先生が会誌に書かれた一文です。

私が応募した第7回JSCA賞以前の第1回から第6回迄の受賞作品(A:延面積)、受賞者を抜粋して振り返って見ますと、

○幕張メッセの構造設計 (A:131,346㎡)  
渡辺邦夫氏

○あきたスカイドームの構造設計  
(A:12,123㎡)

播 繁氏

○函研本社・中央研究所の構造設計  
(A:13,720㎡)

今川恵英氏

○コーベコニシ本社・流通センターの構造設計  
(A:5,813㎡)

中田捷夫氏

○すみだ生涯学習センターの構造設計  
(A:8,447㎡)

梅沢良三氏

以上のように<sup>そうそう</sup>錚々たる構造家の作品ばかりです。そのような賞に僅か延面積362㎡の作品に応募しようとした動機は構造技術の多少の工夫はあるにせよ、テクノロジーからでは到底なかつたのです。私が応募した作品は、広島県の北東に位置する総領町に建設したものです。

この町は田総川をはきんで南と北を山林で囲まれ、この自然の恩恵を生かし、昔は林業、和紙の紙漉き等の産業が盛んでしたが、木材価格の下落、近代製紙の普及により町から転出が相次ぎ、最盛期5000人を超えていた町人口も現在では大半が高齢者の1900人程度となった過疎の町です。その残された高齢者の方々に伝統技術を積極的に生かし、創作活動する施設として誕生した建築が私が応募した作品「ハートリンクス」-「心の輪」です。

現在、高齢化社会に急激に進んでいる国の縮図の様な町で「生きる名人」として高齢者を敬う町の施策は、とかく隠されてしまいがちな、小さな町、小さな建築、されど大きな温かいものが流れているように強く感じた訳です。それは、先に紹介した木村先生の文章の中の「心の目」に通ずるものがあるように思いこれが私が応募した真の動機でもある訳です。

幸運にも非才の私がJSCA賞(努力賞)を受賞できたのは建築家の北野俊二氏の力量と総領町の町施策が背景にあるように思えます。

現代は1960年代の建築家Jウツオンと構造家O、アロブのシドニーのオペラハウスに代表される構造表現主義の時代を経て、N、フォスター、Rロジャースといった構造表現をデザインの前面に押し出す建築家が台頭している第2の構造表現主義の時代となっているように思いますが、これからも私なりに、デザインというヨコ系に構造というタテ系を建築家とのパートナーシップで織りこんでいきたいと思っています。

## 五三会栄誉賞をいただき

村上徹建築設計事務所  
村上 徹

香川県庵治町は四国の最北端に位置し、魚と石のまちというキャッチフレーズが良く似合うところです。五剣山から産出される良質の御影石は特に有名で、故イサム・ノグチ氏や流政之氏等のアトリエが有ることでも全国的に知られています。人口7000余人。街は漁港を取り巻く様に平野部分に集中して広がっています。

数年前、ここでの新庁舎建設のための設計プロポーザルが施行されることになり、私も参加する機会を与えられました。指名された設計者は6名、四国4県に对岸の岡山と広島県を加え各県1名ずつ、全て同世代、そして全員がいわゆるアトリエ派の設計事務所を構えているというユニークな企画でした。庁舎ともなると大手の組織事務所の指名参加というのが国内では一般的ですが、延床面積350㎡という規模や、より新しい庁舎のあり方を問う等を考慮に入れた人選であったようです。小さな自治体の町づくりに対する気概を感じました。約1カ月という短い時間でまとめた提案書に基づき各々のヒアリングが行われた結果、幸運にも私の事務所の提案書が特定されました。それは建築を設計するというよりは、むしろ新しい環境を創るという考え方を場所の歴史的、地理的条件にあわせ、住民参加型の構成で表現したところが評価されたようです。実施設計では、石庭の中央部分に配置してあった逆円錐形の議場の外壁を、地元産出の石貼り仕上げ等も考慮したあげく、全面ガラス張りで実現させました。悪い冗談ではありませんが、文字通りのガラスばりの政治の場の実現、これは日本で初めての出来事だったようです。内部は円形に配置したテーブルと椅子、それをぐるりと取り巻くスロープのある傍聴席、この場所に限っては居眠りもアクビもできません。今の時代、町政の未来について話し合う真意をもつべき空間が必要なのです。

この一般の住民にも容易に理解できる説得力のある造形美等が評価され、平成8年度(第47回)芸術選奨文部大臣新人賞を戴きました。文化庁より発表された授賞理由には



「撮影 新建築社」

「住宅中心の設計活動で注目されてきたが、この公共建築は、建物の配置計画や細部の処理の面で、モダニズムの合理的手法を着実に継承しながら、他方で、中庭の逆円錐形の議場棟などの表現では、自在に創造力を飛躍させ、切れ味鋭く新鮮な空間を実現し、その結果は傑出している」とありました。

また、今回の受賞は映画や演劇、音楽、文学、芸能など10部門ある内の美術部門での受賞ということで、絵画や彫刻、工芸、書、写真、デザイン等一般的には美術館や博物館で親られるものと同等に建築物が芸術品として認められ評価を受けたことは大きな喜びです。デザインには難解でその分野の専門家や評論家の解説が不可決なものが多いですが、親しみやすく未知の明瞭な提案が必要なのだと再認識させられました。広島を拠点にして設計活動を始めて20余年にしてはじめての公共建築の設計監理でしたが最良の結果となりました。

此の度は、このような業績に対して、五三会栄誉賞をいただき光栄に思っています。ありがたく受けさせていただきます。これを励みとし広い視野からの環境づくりに精進し続けたいと考えております。末筆になりましたが、五三会の皆様の御健康と増々の御活躍を期待しております。

(比治山のアトリエに引越す前の庚午にて)

# 発表『五三会学生大賞』

## 平成8年度受賞者

〈設計部門〉

土木工学科

岩本賀伴

「see life—集まって住むことへ」

環境デザイン学科

細谷有野

「痕跡／在処」

〈論文部門〉

環境デザイン学科

山下真麗子

「小規模小学校のオープンスペースと  
その使われ方に関する基礎的研究」

## 平成9年度受賞者

〈設計部門〉

土木工学科

春日琢磨

「FOR URBANIST」

(Hiroshima Ferry Terminal)

環境デザイン学科

高 優子

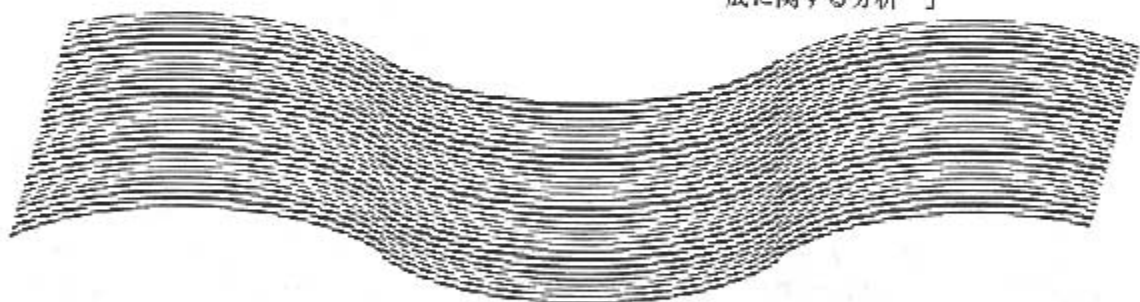
「a・r・t・s・t・r・e・e・t」

〈論文部門〉

環境デザイン学科

平本今日子

「対社会性の視点よりみた戸建て住宅  
の空間領域区分の組合せを中心とし  
た分析—開口部を中心とした領域形  
成に関する分析—」



# 五三会顕彰制度について

平成8年度の会則改定に伴い、新しく五三会顕彰制度（五三会榮譽賞・五三会学生大賞）を設けました。顕彰制度設立の経緯については、巻頭の会長挨拶文をご覧くださいと思います。

## 広島工業大学建築・環境系同窓会「五三会」 会則第4条(5)による顕彰制度の内規について

本会の業務を定める会則第4条のうち、(5)項の「会員の功績に対する顕彰」については、以下の内容に基づいて執行する。

### 〈五三会榮譽賞〉

- 賞の内容** 五三会の社会的地位を高めることに寄与した会員に授ける賞
- 対象者** 社会的に権威のある以下の賞を受賞した会員の内、当該年度内に事務局に対して自己申告し、役員会で承認された者
- (該当賞) ・日本芸術院賞、同恩賜賞  
・芸術選奨文部大臣賞、同新人賞  
・関連する学会賞及びこれに準ずる賞（日本建築学会作品選奨等を含む）  
・日本芸術大賞  
・村野賞  
・J I A 新人賞（日本建築家協会）  
・吉岡賞（財団法人 吉岡文庫育英会）  
・J S C A 賞（社団法人 日本建築構造技術者協会）  
・松井源吾賞（構造）  
・その他、上記の賞と同等以上に社会的に価値のある賞
- 賞・賞金** 受賞者には、賞状および賞金として金5万円を授ける  
(なお、五三会の会計状況により、金額は変更する可能性がある)
- 授賞式** 各年度始めの「五三会」総会又は懇親会にて
- 付 則** ・授賞式参加のための交通費・宿泊費については実費精算とし、本会の会計から支出する  
・授賞対象については、総会もしくは役員会において随時調整を行うものとする  
・本賞は、複数回の受賞を特別の場合でない限り認めない  
・本賞に関する連絡先は、「五三会」設計協議事業委員会を窓口とする  
・本内規は、平成8年度より施行する

### 〈五三会学生大賞〉

#### 賞の内容及び対象者

卒業年次における環境デザイン学科・土木（建設）工学科学生のうち、その年度において卒業研究又は卒業設計が優秀と認められた者

- ・環境デザイン学科 若干名
  - ・土木（建設）工学科 若干名
- (最大6名まで)

**審査方法** 広島工業大学教員の推薦を受けた作品の中から、「五三会顕彰制度認定委員」が選定する

**賞・賞金** 受賞者には、賞状および記念品を授ける

**受 賞 式** 卒業式当日 広島工業大学にて

- 付 則** ・顕彰予算は、総額3万円程度とする  
・本内規は、平成8年度より施行する

# 24th ITUMIKAI COMPETITION

## 第24回五三会建築設計競技結果報告

五三会建築設計競技も、会員の皆様をはじめ県内の大学・高専など関係者の方々のご理解と、ご協力をいただき無事24回目を終えることができました。

本年度は、広島大学工学部第四類助教授としてご活躍の丹羽和彦先生に、審査をお願い致しましたところ、ご多忙にも関わらず快くお引き受けくださり、「ヒロシマ：出会いの場／語らいの場」という、課題のもと開催することとなりました。

昨年11月19日に応募締切を迎え、広島工業大学環境学部環境デザイン学科8作品、広島工業大学工学部土木工学科建築工学コース4作品、福山大学5作品、福山大学大学院2作品、近畿大学4作品、広島大学2作品、広島大学大学院3作品、呉工業高等専門学校1作品及び、広島大学大学院生と近畿大学大学院生の学校間による合作1作品の計30作品におよぶ力作が寄せられ、12月2日に広島工業大学広島校舎において、多くの応募者や興味のある学生の方々が見守る中、公開審査会を行いました。

どの作品も力作ばかりで甲乙付け難く、審査にあられた丹羽先生もだいたい悩まれたご様子でしたが、各作品を時間をかけてじっくりとご覧になり、別記の通り各賞が決まりました。

入選の皆さん、おめでとうございます。

誌面の都合により、ここでは入選作の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作品はCGを用いるなどプレゼンテーションに工夫を凝らしたりするなど、どの作品もそれぞれに興味ある提案がなされており、惜しくも選にもれた作品もそのレベルは高く、一生懸命に取り組んでいる姿が目につかぶようでした。

表彰式は12月6日、広島工業大学広島校舎において行いました。表彰式の後、簡単な懇親の場を設けました。入選された方々による簡単なプレゼンテーションとそれに対する質疑応答を行うなどして熱のこもった論議が交わされ、たいへん有意義なものとなりました。

丹羽先生には、この事業にご理解頂き、ご多忙の中課題の作成、審査・講評と貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。

ご協力ありがとうございました。

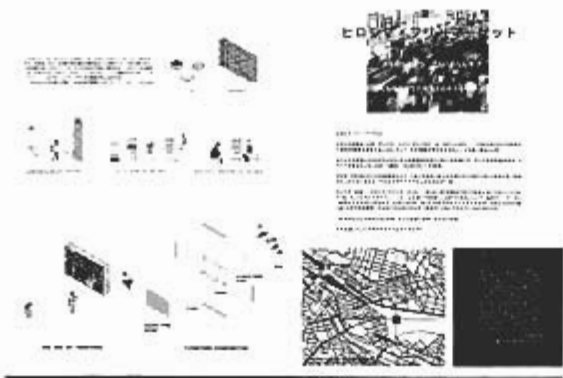
最後になりますが、本年度事業は我々実行委員の勝手等により例年と比べ運営スケジュールが大幅に遅延いたしました。この場をお借りして各学校の学生の皆さんはもとより、会長をはじめ五三会執行部の方々他関係者各位にご心配、ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

以上にて本年度の建築設計競技の結果報告を終わりますが、今後ともこの設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

### 入選発表（敬称略）

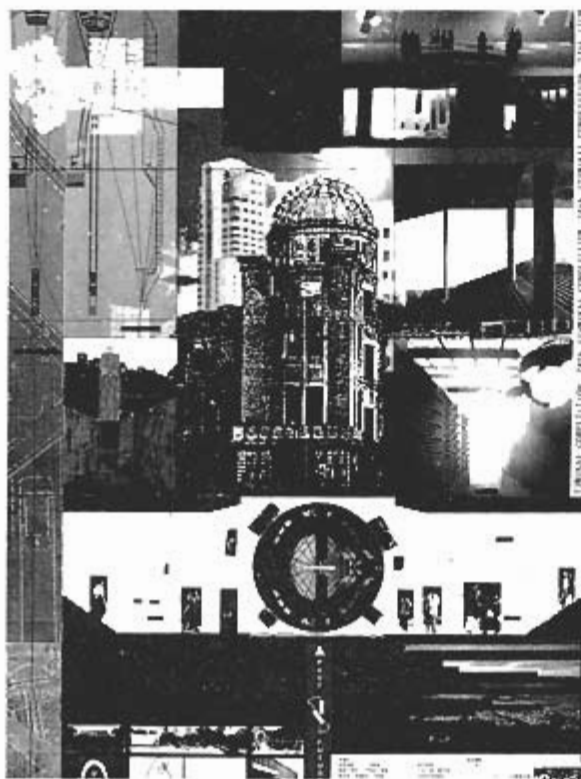
- |     |                   |
|-----|-------------------|
| 最優秀 | 富田 英夫（広島大学大学院）    |
| 優 秀 | 岡本 祐紀（広島大学大学院）    |
|     | 西川 和宏（近畿大学大学院）    |
| 優 秀 | 長谷川 和哉・橋本 敏陸      |
|     | （福山大学大学院）         |
|     | 岡野 正紀・本後 淳史       |
|     | （福山大学OB）          |
| 佳 作 | 川島 広充・八谷 尚        |
|     | （福山大学工学部建築学科）     |
| 佳 作 | 西川 浩史             |
|     | （呉工業高等専門学校建築学科）   |
| 佳 作 | 山下 裕之・古家 慎子・      |
|     | 吉垣 良子             |
|     | （広島工業大学工学部        |
|     | 土木工学科建築工学コース）     |
| 佳 作 | 東尾 勝則             |
|     | （近畿大学工学部建築学科）     |
| 特別賞 | 山岡 真澄（広島大学大学院）    |
|     | 三好 裕栄（広島大学工学部第4類） |





優秀

岡本 祐紀  
(広島大学大学院)  
西川 和宏  
(近畿大学大学院)



優秀

長谷川 和哉・橋本 敏暁  
(福山大学大学院)  
岡野 正紀・本後 淳史  
(福山大学OB)





佳作

川島 広充・八谷 尚

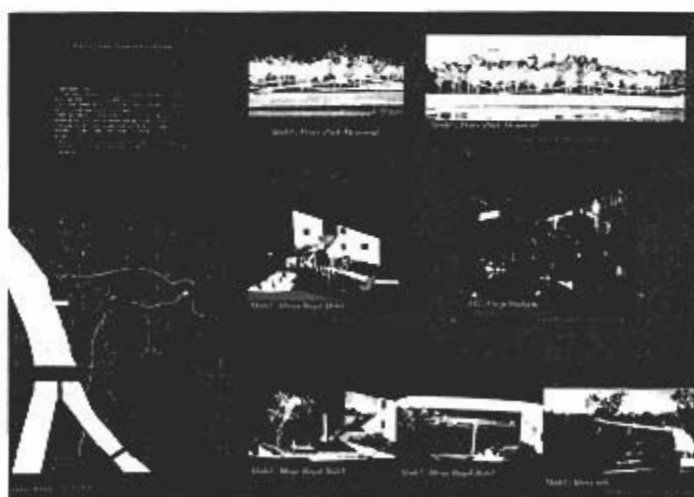
(福山大学工学部建築学科)



佳作

西川 浩史

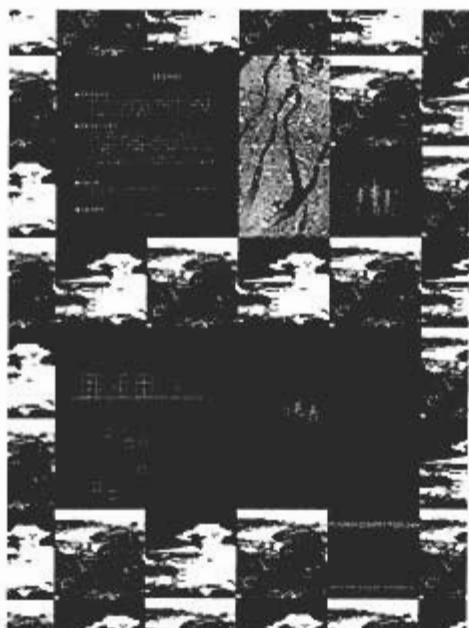
(呉工業高等専門学校建築学科)



佳作

山下 裕之・古家 慎子・吉垣 良子

(広島工業大学工学部土木工学科建築工学コース)



佳作

東尾 勝則 (近畿大学工学部建築学科)



特別賞

山岡 真澄 (広島大学大学院)  
三好 裕栄 (広島大学工学部第四類)

広島大学工学部第四類 助教授 丹羽 和彦

ヒロシマをもはや「体験」としては語り得ない世代へとバトンが渡されつつある今、他所からの訪問者を迎えてどのような出会いや語らいの場が可能かを、「国際平和文化都市広島島の街づくり」というメインテーマの下に自由に考えてもらうのが、今回の課題の主旨でした。ここでは、狭い意味の建築に縛られず、いわば装置のようなものからランドスケープのスケールに至るまでの幅広い提案を想定していたのですが、実際、多数の応募作品のうち、通常の建築の枠組みで捉えられるものはわずか数点にとどまり、バリエーションに富んだものとなりました。

審査の主眼に置いたのは、一つには出会いや語らいに何を媒介させているかであり、もう一つはそこに「広島」がいかに組み込まれているかという二点です。

最優秀の富田君の作品は、金属製のフローティングピースを結合して川の上に出会いの場を作り出すもので、「広島」の風景をうまく媒介として取り込んだ夢のある秀作です。アジア会議という仮想のストーリーの中に提案の場を設定することで地域的な広がりや暗示し、一方で工法的・技術的処理や未使用時の始末への配慮も怠らないなど、総合的によくまとめあげており、ある意味では壺を心得た作品ともいえます。しかし、最も評価したのは、「川に浮かぶ場」というだけの一般解にとどまりがちアイデアを、二つの特定の場所に位置づけ、それぞれの固有の解を提示した点です。この時、川ばかりでなく周辺のコンテクストをすべて味方にして取り込むことに成功しました。

優秀作として選んだ二点は、ひとつが建築の、もう一つが装置の土俵で提案を試みたものです。出会いの媒介としてあくまで原爆ドームに固執した長谷川君他の案は、ドーム直下の地下空間まで訪問者を引き込み、過去とのより直截な対話を強要することで、今以上の、あるいは今とは異質の出会いにつなげていこうとする若々しい作品として好感がもてます。アプローチからドーム下部の空間まで

様々な要素を多様したきめ細かい演出が考えられているのですが、それらを的確に伝えるプレゼンテーションの工夫がもう少し欲しいところです。

物の交換は古今東西、出会いと語らいの大きな媒介となってきました。フリーマーケットは、経済行為が後退する分、「交換」から「交歓」への転機を内包しています。岡本君他の作品はそこに立脚するものですが、マーケットを成立させる仕掛けを必要最小限の可能性のある装置としたことで、より説得力を増すものとなりました。この作品が一つの提案となり得たのは、広島市の戦後の闇市の映像をその投影した正にその瞬間からなのですが、その時、否応なく生起するズレの現実に作者はどのように向き合おうとしているのか、敷地の選定に対する疑問とともに尋ねてみたいところです。

佳作の4点は、将来への期待も込めて選出しました。西川君の作品は原爆ドームのピスタを回復しながら、軸線上の資料館前広場にAtomicgardenを沈めるもので、巧みな建築的構成が示されています。ただパフォーマンススペースやギャラリーといった単なるスペースをそのまま詰め込んでしまっただけでは、それらが使い古された内容を引きずっているがために新しい出会いの情景が浮かびあがりません。



「居住」を出会いの媒介に設定した唯一の案に、川島君他の作品があります。せっかくの果敢な挑戦が、「ドームを切り取る壁」や「ニッチ」「キャンパス」「銭湯」といった、すむことに付帯する設備に収斂してしまったのが惜まれます。個の確保が前提として必要だという作者の声も聞こえてきますが、やはり居住の在りようそのものの中に出会いの契機を仕込むような積極的な提案を見たく思いました。

山下君他の作品は、プロムナードを挿入して広島市の街を異化しようとする試みで、同様の視点に立ったものも予想どおりいくつかありました。彼らの案を選んだのは、「原っぱ」の創出であり、模型写真が伝える舞台背景を思わせるような不思議な世界です。こうした提案では、挿入した要素がそれぞれの既存の場とどのように呼応しているかが大切で、（入り口と）出口の提示に象徴されるように独立した回遊性を強調してしまえば、それ自体の自己完結性ばかりが浮かび上がって、本来の意味が弱まります。

「市場のような大学」「思想の市場」という概念提示が魅力的なのは、東尾君の作品です。しかし図面表現に苦慮する前に、提案の主体となる建築的装置をさらに詰める必要がありました。

今、若い人たちの間で人気の「ブリクラ」に注目し、その交換の場に現代の出会いや語らいのリアリティを読み取ろうとした山岡君他の作品は、今回の応募作の中で異色としてよく、特別賞として記録することにしました。ここでは広島市の場所性ばかりでなく、出会いの契機を建築に求める期待すら吹き飛んでしまっています。ブリクラの背後には、手軽すぎる程の映像に載せて普段着の「個人」が気楽に行き交う世界が控えており、それは名刺による仕事や所属、肩書きの交換などとはもちろん異質である上、従来の写真にはない広範囲への伝播や、インターネットには望めない接触の直接性といった独自の属性も持ち合わせていそうです。そこでは言葉などすでに問題にならないはずですが、作品が言葉の翻訳ボードの提案に帰着してしまったのはどういうわけでしょう。こうした点がもっと的確に整理され表現されていたら、きわめて



軽い表層の中に、現代の出会いという重いテーマをうまく封じ込めることができたのかも知れません。

惜しくも選にもれた作品にも好ましいものもいくつか散見されました。とくに互いにモノを作り出すことを出会いの媒介とした、鈴木君や、川久保君、寺尾さんの名作品には爽やかさを感じましたし、松岡君のそれがもつ自由な批判精神の展開にも関心をもちました。今後の成長が楽しみです。

21世紀を迎える広島という特殊性は被さっていましたが、出会いと語らいという永続的なテーマに、今の若い人々がどのような反応を示すかを知るのが、一つの楽しみでもありました。興味の対象はさまざまでも総じてひたむきな姿勢が伝わってきました。少し気になったのは、一見華やかな表現の向こうに、脆弱な問題の把握や月並みな視点が垣間みえてしまうことです。今回、審査員をいささか困惑させたのは、特別賞に該当した作品のみで、それとて、もし誤っていればお許し願いたいのですが、こちらの深読みと妙に共鳴したせいかもしれません。率直な疑問を常に大切にし、とらわれることのない視点、清新な眼差しを育てていって下さい。応募していただいたみなさんの今後のご健闘を祈ります。

近年は多くのコンペが開催されるようになりました。この度伝統ある五三会の建築設計競技に参加させていただきましたが、これが

そうしたコンペの単なる入門の域を超えて独自の存在意義をもつものであることを身をもって知りました。審査員と応募者の距離の近さは、単に教育的配慮の比重の大きさという言葉では説明できない多くのものを生み出します。企画、運営にあたられている広島工業大学五三会ならびに同会設計競技事業委員会の皆様のご努力に敬意を表し、貴重な機会を与えていただきましたことに心からのお礼を申し上げます。



### 第25回五三会建築設計競技のお知らせ

五三会建築設計競技も回を重ね、25回目を迎えようとしています。  
四半世紀という節目を迎えるにあたり、どのような設計競技ができるか実行委員一同、いろいろな企画案を検討中です。  
申し訳ありませんが、もう暫くお待ち下さい。

# 同窓生の作品紹介

長田 桂代子

日頃、多くの同窓生の皆様が、様々な分野で御活躍されている事と思います。

そこで、ここでは皆様の平素の活動を、できるだけ具体的な作品をあげ、紹介していきたいと思ひます。

今回は、中島伸夫五三会会長をはじめ、多くの同窓生の方が御活躍されていますL A T環境設計事務所の皆様の御協力を頂き、昨年の平成9年9月20日から11月24日にかけて開催されました、「グリーンフェスタ・ひろしま '97」について御紹介したいと思います。

## グリーンフェスタ・ひろしま '97

### ■開催の位置づけ

グリーンフェスタ・ひろしま '97は、「世界の人々や、子供たちに緑と命をはぐくむ心を伝えていくための新たな出発点にしたい」という恒久平和の願いとともに、暮らしの中に花や緑があふれるような市民総参加の緑化運動を進めていくことを目的に開催する花と緑の祭典である。

### ■開催のテーマ

水 緑 いのちの輝き

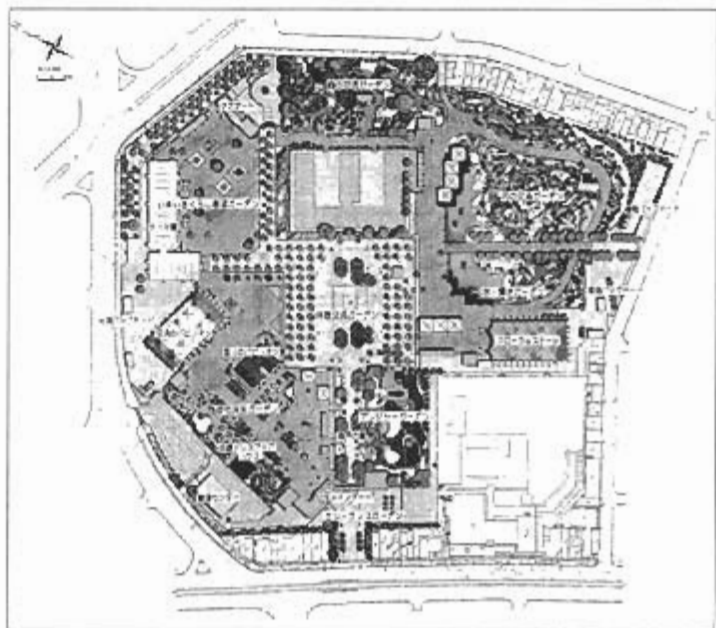
上記のような位置づけと共に、被爆から半世紀が経過し、水と緑の豊かな110万都市としてよみがえった広島に、第14回全国都市緑化広島フェアは第三次緑化運動のスタートの事業として、また、被爆50周年事業の一環として開催された。

### ■作品紹介

今度のイベントでは、メイン会場にあたる広島大学本部跡地をはじめ、中央公園会場、東部海岸緑地会場、牛田総合公園会場の四ヶ所がつけられました。

ここでは、メイン会場の中にある作品を何点かとりあげたいと思ひます。なお、メイン会場は、主要展示、出展施設、開催施設など8つのガーデンと3つのパビリオン、ステージで構成されており、草花は約700品種、75万株使用されています。

広島大学本部跡地会場  
全体平面図



#### □都市共生ガーデン

環境や健康をテーマにした植物を展示したエリア。

- ・ブロードウェイの左にエコライフコーナー、面白採園コーナー、休憩コーナー、ヘルシーコーナー、右にユニットバザールコーナーの計5つのコーナーを設けている。
- ・スペース的には狭く、見た目も趣味の園芸レベルといった感じだが、プラン決定までにはかなり試行錯誤したエリア。



#### □森の交流ガーデン

「作ってみたいくなる、季節の草花が楽しめる庭」をテーマに20社の造園企業が個性的なホームガーデンを提示したエリア。

- ・数年後には、広島デルタで一番樹高の高い樹林を形成するであろう旧理学部の実験林跡地を利用。
- ・温室や旧理学部校舎修景は、イングリッシュガーデンの田園風様式とし、ホワイトガーデン、ボーダーガーデンなどの手法を取り入れた。
- ・温室は、旧理学部校舎と同じく被爆建物。



#### □花交流・水輝きガーデン

広島デルタをかたどった1haの大花壇に、100種20万株の花を植栽し、花や緑あふれる広島をイメージしたエリア。

- ・花壇のデザインは古くから日本人に親しまれてきた「花鳥風月」のこのころをもとにしている。
- ・花交流・水輝きガーデンは山の景、森の景、風の景、花の景、水の景の5つのゾーンと、その周辺を取り巻く出展花壇で、日本の秋景色を演出している。
- ・出展花壇周りには、ササやススキなどの共通植物材料を用いることによりガーデン部分との統一感を出した。



資料 「グリーンフェスタひろしま'97」(社内資料)  
造園修景ひろしま(日本造園修景協会)  
資料提供 LAT環境設計事務所

#### ■最後に

現在、会場跡地の今後の利用方法は、確実には決定されておらず、設計段階ではそういった状況からも影響を受け、大変苦勞されたようでした。

今後、あの広大な敷地がどのように利用されていくのか、大変興味があります。

なお、今度の原稿製作にあたり、中島会長をはじめ事務所の方々に御協力頂きました事を、この場を借りて心よりお礼申し上げます。有り難うございました。

# 新社会人の声

卒業して約1年、在学中に描いていた社会と現実とのギャップをきいてみました。

## 広島工業大学を卒業して

鎌田 健司

私は平成9年3月に環境デザイン学科を卒業して、現在、広島県環境保健協会という財団法人の環境アセスメント部門で働いています。潮流・水質、騒音・振動などの現地調査と影響評価シミュレーションの手法を実際の作業を通じ、勉強しています。

また、生物が好きなこともあり、生物調査をはじめとするサンプリング調査にはできるだけ参加させてもらい、少しでも経験・知識を得る機会を活かせるよう心がけています。

在学中、「自然・環境と関われる仕事をしたい…」と考えていた自分にとって、今の仕事はほぼ理想どおりの職業と言えるでしょう。

職場での仕事として、もう一つ、PC・OA機器の管理を担当しています。パソコン、デジタルメディアに興味があるという話を課内での面接時にしたところ、2つの課で所有している合計40台程度のPC端末、プリンタ及びネットワークの一部を維持管理する権限をもらうことができました。メンテナンスともなると、業務時間外に行わざるを得ないため、シミュレーションが終了した後、一人残って機器調整を行うこともしばしば。

在学中に抱いていた仕事のイメージというところ「決まりきった仕事を淡々とこなす」、「固定的な役割分担の世界」という先入観がありましたが、実際には色々な仕事を適性にあわせて割り振ってもらっているように思います。

また、卒業が近づいてくるに従い「今まで勉強したことが会社で通用するのか」といった不安を感じることもありましたが、実際問題、職場でその知識自体が有用であった例は少ない気がします。知識自体より、基礎となっている考え方や事象に対するアプローチの仕方など、その分野のベースとなっている部分としての意味合いが強い。

環境デザイン学科で学んだことは、極められた専門性ではなく、開かれた専門的視野であったと感じます。また、会社が自分に求めているものは、特定分野でのスペシャリストではなく、面的な広がりをもつ「アセスメント」的な考え方を身につけることなのだと感じます。

まだまだ勉強不足で独力でできる仕事は少ないですが、積極的に仕事に参加し、自分なりの業績が残せるよう頑張りたいと思います。

## 社会人1年目として思うこと

河尻 順津子

平成9年3月に大学を卒業してから、もう少しで1年が経とうとしています。去年のこの時期を思えば、卒研で毎日忙しくしていたように思います。

私の現在の仕事は、建設事務という仕事に就いています。内容はというと、主に建設担当者の補助及び建設部の事務です。請求書をきったり、業者さんに案内をしたりと、大学で学んだこととはかけはなれた仕事です。べつに、始めから事務を希望したわけではなく、たまたま建設事務という仕事に欠員がでたために決まった配属でした。設計を希望していた私としては、かなり不本意でしたが、今も続けています。今では、仕事にも慣れてきて、会社で自分のポジションというものが、ある

ように思います。配属が決まった時点で、会社を辞めることも考えましたが、私には建築士の資格を取るという目標があったのでそれは思いとどまりました。はっきりいって私にとって会社は面白くないところですが、自分の任されている仕事に関しては、自分なりにおもしろみを見付けて仕事をしています。実際、社会に出て自分の納得のいく仕事をしている人は少ないと思いますが、社会人1年目として思うことは、自分自身がしっかりとした目標をもっていれば、それに向けて前へ進むことが出来るのではないかと思います。



## 就職して半年後に思うこと

下村将晴

我が社は、新入社員の1年間に三つの職場を4ヶ月ずつ回るという制度があり、私は、設計部、技術部、現場の三つを経験し、現在は大阪府堺市のJR堺市駅前再開発という現場で働いています。

私が建設業という職業に就いて半年一番強く感じた事は、自分の建築に対する知識の無さです。建築は非常に幅が広く、奥が深いので、基本的な事ができないと、その上に何も積み上げる事ができないし、経験した事を十分に理解できないのです。この事は、非常に強く感じ、学生時代にもっと勉強しておけば良かったと後悔しています。ただ私は、土木工学科の建築工学コースを卒業しているので構造力学や土質力学などを他の建築学科を卒業した人に比べ多く勉強でき、業務において

も役立っています。

現在、建設業は非常に厳しく、我が社も例外ではありません。建築主からは、より安く良い建築を求められ、それができない会社は競争に負けてしまいます。しかしその様な中で、技術力は各社とも飛躍的に向上しており魅力的な建築物が多く建てられています。夢のある建築は人々に感動を与え、安全な建物は安心を与えます。まだまだ建設業も捨てた物ではありません。多くの人々と協力しながら、地球という大きなキャンパスに形として建物を描く事が建築にはできます。企業にはこれからさらに厳しい時代になると思われますが、これらの思いを忘れずに、建築という夢のある職業にやりがいを感じながら働いていきたいと思えます。

## 広島工業大学を卒業して

滋野勝稔

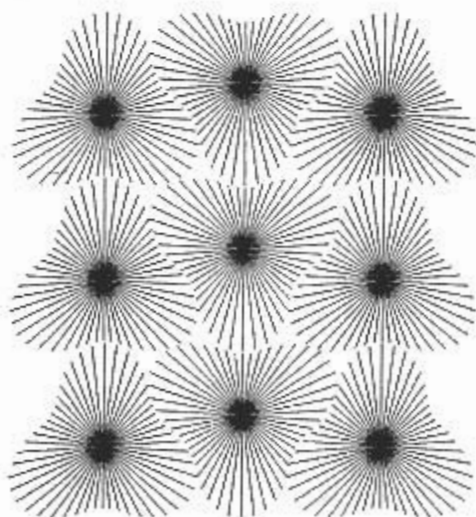
広島工業大学を卒業してから数ヶ月が経ち、社会人としての生活のリズムにもようやく慣れたという感じです。学生の頃は毎日時間にかんがいのゆとりがあり、楽しく過ごしていたのですが、社会人ともなるとまず平日は絶対にゆとりの「ゆ」の字も言えないくらい忙しく、また休日にも仕事の期限の関係で出勤することもあり、とにかくハードな毎日を過ごしていますが、なかなか充実していると感じています。

仕事の面では、とにかく自分の無知に憤りを感じるばかりで、この先自分は一人前のエンジニアになれるのだろうかと不安になる事もあります。大学で学んだ事で無駄な事は一つもなかったと思いますが、学ぶべき事がまだまだたくさんあるので、今はただ頑張らなければならぬという思いで一杯です。

また、仕事をしていて喜びを感じる時は、一つの仕事をやり終えた時もそうですが、やはり自分の考えを採用してもらえた時は本当にうれしいものです。どんなに小さな事でも、自分の言った事が通るということは快感であ

り、またやり甲斐を感じます。

社会人としてまだ始まったばかりで、本当の苦勞というのはこれから先に何度もやって来ると思うので、自分で解釈出来る力を身に付け、そして方々で活躍されておられる先輩方の様に早くなりたいと思っています。



# コース紹介

現役学生による、環境デザイン学科、土木工学科、それぞれのコース紹介

## 《環境デザイン学科編》

### 鬱鬱たる日常に想う環境デザインの可能性

～工大キャンパスの雑踏の中で～

白石隆治（3年）

圧倒的他人の発見を限りなく私自身の声と  
感じる感覚。他人への環境への執拗な観察、  
執着、妬み。漠然とした自己否定の蓄積

〈他者〉〈自己〉〈モノ〉……〈自己〉の崩  
壊、〈他者〉の不在、〈モノ〉の氾濫。在るの  
はかすかな「幻想」均質な時間、等方な空間、  
不可解な狂喜の時代。物理現象、自然現象、  
生命現象、社会現象、経済現象……。一切は幻  
影のごとく無関心と無気力の海に投射される。

一元的二元的多元的？個人—集団—共同？  
支離滅裂な錯乱状態が終わりなく続いてゆく。

世界は、環境は、—共同幻想的フィクシ  
ョン—として在る。

引き裂かれた人間関係、引き裂く社会。そ  
の中で行われる健全な偽善＝最も深い病理

人は深淵を暗闇を嫌い、偽りの明るさを求  
める。終わらぬ日常。孤独、緩慢な灰の到  
来。全ては最も複雑で最も中性的なままに、  
（見えないもの、見えなかったもの、見えて  
いたもの、見ようとしなかったもの）

盲目との葛藤、後退する身体、置き去りの  
精神。独占したい欲望と破壊への野望。

予定調和を巧みに作りつつその中に入り  
きっている虚しい作業。

（例えば、縮尺（図面）の中にしか存在しな  
い建築モラル、環境デザイン）

絶えず過去をつくる感覚、後ろ歩きの不安  
緊張。（緊張はもはや創造的ではない）

貧困なイメージに駆逐される言語。記憶の  
断絶。浮遊する身体。

〈あなたの夢は何ですか〉

あきらめ顔で、涼しげに見据えられる現在、  
未来。立つことさえあきらめた若者達。

〈身体〉と〈精神〉に自虐的矛盾をかかえた  
自閉症気味の日常。

—天空の下に、大地の上に—

“場所”は刹那的に自慰的に与えられている。  
生きられない境界、溶解する“存在”

深淵へと自由落下を始める身体としそれを  
からくも繋ぎとめる存在の軽さ。

挫折の淵に立ち、自己嫌悪の海におぼれ、  
未来と過去とが同時に消滅する……。

〈可能性〉

立ち去り難い風景、ふと立ち止まる日常の  
断片、人を想う感覚、創造への希求、未来へ  
と開かれる生きる意志。

人を美しいと想う感覚、人を愛しく想う感  
覚、人を許す、引き受ける勇気、優しさ。

奇怪な無秩序の様相を呈するこの現実世界  
“私”がまぎれもなく立脚するこの現実世界  
生きとし生けるすべての存在が見ているで  
あろう世界。

—全否定される人格、分裂する〈他者〉と  
〈自己〉錯綜する〈身体〉と〈精神〉解体さ  
れる理性と道徳—

すべて、建築と環境デザインのあるいは人  
間の創造性の〈可能性〉である。



## 《土木工学科編》

### 「私の学生生活」

今 岡 望 (3年)

土木工学科に入学してから早いもので3年が経ち、4月には4年生になります。3年前、夢と希望で満ちあふれて入学したのがつい昨日の事のように思えます。

それまでの規則的な高校生活とは異なり大学は自己探求の場であるために、1年次の時は自分にとって興味もてるものは何であるか探そうといろいろな事やってみました。

土木工学科では2年次より建築と都市の両コースに分かれるため、1年次では建築と土木の勉強を幅広く学びました。私は建築工学コースへ進みましたが、土木関連の講義で学んだことは今後とても役に立つと思います。

2年次からは勉強も専門的になり、思わず悲鳴をあげたのは設計製図でした。慣れない手つきで定規をあて、線を引いてみてうまく引けない。書いては消しの繰り返しでケント紙を汚してしまい、やり直しの連続でした。

トレースでさえもうまく書けない私は建築でやっていけるのだろうか真剣に悩んだこともありましたが、今まで何度となく取り組んできた課題の成果でしょうか、昔より随分きれいに書けるようになりました。又、構造設計関連の講義が多く充実しており、難しかったけれど私は興味があったので楽しく勉強できました。

今現在、私は3年次ですが講義もより一層専門的になり、実験、実習もあり勉強が難しい上に忙しくなりました。今までは受動的にしか勉強できなかったけれど、これからは能動的にならなければ自分自身が伸び悩んでしまうと思います。将来は、構造設計の仕事がしたいと思っていますが、夢が現実となるように何事も疎かにせず積極的に学び、残りの大学生活を有意義で充実したものに社会に出たいと思います。

### 「建築工学コースの紹介」

上 恵 木 宏 壯 (4年)

私達は、土木工学科建築工学コースの第二期生として、来春より社会に出て建築における様々な分野で働いていくこととなります。

今年は、就職協定が廃止されたこともあり、4月より活発に企業説明会などが各地で開催され、従来よりも早い時期に私達の就職活動は始まりました。就職する企業を決めるにあたって、自分がどんな道に進んだらいいのか、ずいぶん悩みました。

コース全体としては、ゼネコンや設計事務所、ハウスメーカー等、主に建築関係の企業に大多数の学生が内定しています。

建築工学コースは建築の力学系の講義を中心としたカリキュラムにより、建築意匠や測量学など幅広く学ぶことができます。

学生は、3年次の後期に自分の所属する研究室を決め、4年次より本格的な研究が始ま

ります。

私は、以前から特に鉄骨構造に興味を持っていました。そこで、その専門の研究を行っている高松研究室に所属しました。現在、私は卒業研究として、「座屈補剛されたH型鋼柱の変形性状に関する実験的研究」を行っています。研究を進めていく上で、それまでは見えてこなかった問題が次々起きて、苦勞が絶えません。しかし、それらの問題を1つずつ解決していくことで、研究もなんとか順調に進んでいます。この研究で得た経験が社会に出て少しでも役に立つだろうと思い、四苦八苦しながらも頑張っています。

# 環境デザイン学科 ゼミ紹介

## (森保ゼミ)

〈森保ゼミの研究内容〉

- ①住宅および集合住宅の計画に関する研究
- ②公共施設および地域・地区の計画に関する研究
- ③インテリア計画に関する研究
- ④建築および地区の環境デザイン（設計）

〈活動内容〉

森保ゼミは環境・建築の計画と設計を専門とする研究室であり、卒業研究は環境デザインに関する「論文」と「設計」の両方を行っています。

論文については、個人または共同で行っており、研究内容は建築の設計・計画に関するもので、主に住宅・集合住宅の計画とデザイン、空間・形態の計画とデザイン、インテリアの計画とデザイン、生活領域形成の計画、公共施設の計画とデザイン等です。

設計については、個人設計とし、テーマは各自の自由で行っています。先生には設計コンセプトおよび表現技術、そして、そのベースづくりにおいて社会のうねりに敏感であるようにと、指導を受けています。設計のテーマは多様であり、施設の共用・複合のデザイン、新しい地区のデザイン、住宅集合環境の再生デザイン、都市の有機的統一における都市生成のデザイン等です。

この様に、企画・計画・設計の全体に目配り出来るように指導を受け、論文や設計等の卒業研究に励んでいます。

## (菅ゼミ)

こんにちは、菅ゼミです。現在、菅先生の下、4年生が12名、3年生が7名の計19名でゼミナールを行っています。

私達のゼミでは、人工衛星リモートセンシングによる地球環境情報処理を主に、人工衛星高次利用技術に基づく環境・防災等、社会基盤情報システムの開発及び合成開口レーダーと干渉計を使った地表の時空間的変化の抽出と解析の研究をしています。

## (野添ゼミ)

我々野添研究室では、週1回のゼミナールと少ないのですが、そこはゼミ生の自主性にまかせて、各自目標を持ってやっています。

研究の内容は野添久祝先生のご指導のもと、人々をおびやかす地震に対していかに安全に、また、より安心してすごせる建物にするためにはどうしたらよいか？そのような研究を行っています。

例えば、現在建物への入力地震動を低減させる免震構造や建物の揺れを制御する制震構造などの研究を行っています。また地震動は地盤から建物へと伝わっていくので、その地盤の特性を調べることで建物に何らかの対策ができ、地震の影響を小さくできると思われるので、地盤に関する研究も行っています。

地球環境問題が取りざたされている現在、環境デザイン学科としてこのような研究を行うことで、建物の崩壊を防ぎ建設活動によって生じる二酸化炭素排出などの環境負荷をできるだけ少なくできれば幸いだと思います。

## (佐藤洋ゼミ)

環境デザイン学科の佐藤洋ゼミは、先生のもと、4年生9人と3年生11人と猫のクロとハトのぼっぼの20人+2で構成されている。

主な活動内容は、建築デザインという目からつくるということ学ぶことである。実際に建築を見に行くということや、何かをつくってみるといった実践的なことと、概念的、抽象的なことの両方の活動から勉強している。しかし、やっていることは、建築デザインだけの話ではないと思っている。今年の4年生の進路も、建築事務所、店舗事務所、家具のデザインや他のデザイン、膜をつくる会社や大学院へ進学する者と、デザインする、つくるといったものをベースに、いろいろな方向へ進もうとしている。

そういったことをベースとしながら、何かを学ぼうとする自発的な行動が、今のゼミを支えているのではないかと思う。

## (西川ゼミ)

私達の西川ゼミでは主に“住宅・住環境”の研究をしており、従来の住宅の型や、これからの社会に似合った住まいは、どうあるべきかということをお勉強しています。その他にもゼミ生それぞれが興味を持っている分野を自由に研究しています。

西川先生は、ゼミに所属するまで怖い先生というイメージが強かったのですが、実際はとてもおもしろくよく笑う先生で、私達に対しては、状況を考えて厳しく温かく接してくれます。先生は私達にあまりあれこれ言わず自主性にまかせるといった感じなので、私達も好きなように行動でき、自分のやるべき事を自らはじめていこうとする前向きな気持ちを持つことが出来ました。そんな中でみんなが集まるゼミ室は、楽しくにぎやかで、いろんな話で盛り上がっています。今やっている卒業研究もお互いで相談し合って進めています。

西川ゼミはこのようなゼミです。

## (西垣ゼミ)

我々西垣ゼミ生14名は毎日窓から見える自然に四季の移り変わりを感じながら環境と建築の融合を目指して毎日製図台に向っています。主な活動内容としては、3年生後期からゼミに参加し、ゼミナール活動として3年生全員で話し合ったテーマを研究します。そのテーマは特に決まっておらず、作品研究から外国の文献の日本語訳まで毎年様々です。その他、4年生と3年生合同でコンペにも積極的に参加しており、提出期限前になると狭いゼミ室は慌ただしくなります。4年生は11月に入ると卒業設計に入り、残り3ヶ月間で作品を仕上げることとなります。

他のゼミに比べて日の浅いゼミですが、それ故にこれから後さらに大きく前進していくでしょう。

## (水田ゼミ)

環境デザイン水田ゼミ…

それは、全ての事物が人間にとってどのような意味としての存在のありかたをしているのかということ

それは、空間を生み出し意味を強めることで激的に変化する

それは、事物の本質を視るまなざしにより開かれる

それは、大学4年間では全てを修得することは難しく

それは、死ぬまで終わることはない

我が大学で、我がゼミでのそれとのであいは、私たちの人生観を360度変えるものであった。

たとえば、今にも大空へ飛び立とうとする一羽の鳥であり、翼であり、そのやわらかな毛の一つ一つが、鋼のように硬く飛ぶという意志を持つこと…

鳥の飛び立つ姿にそれを視たときその鳥は、何か特別な存在として現れるであろう。

それは、事物を視るまなざし

それは、意味を見据えること

それは、全てに向かい開かれ、生き生きとしていること

それは、私たち人間の存在あるがゆえのなにかを…

design is…

環境デザイン・水田ゼミ

…明るみへのまなざし

環境デザイン・水田ゼミ

…それへののりだす勇氣

# 土木工学科建築工学コース ゼミ紹介

## (浅野ゼミ)

こんにちは。浅野ゼミでは、熱心に指導をして下さる浅野先生を中心に、日々研究に取り組んでいます。研究内容は次の通りです。

「広島地域表層地盤の常時微動に基づく振動特性」広島地域の表層地盤の地震時振動特性を常時微動から求め、それを将来の防災、構造物の被害予測に役立てる。

「不整形地盤の振動特性に関する実験的研究」角度の違う斜面を設けた試験体に砂を入れ実験する。今後、樹脂による実験を行い、振動特性を検討する。

「地震時の剛体の転倒シミュレーション」地震時にタンスや墓石などの剛体の揺れをコンピューターを使いシミュレーションし、それにより得た解析値と実験値を、比較検討する。

浅野ゼミでは、発表に向けて孤軍奮闘中です。以上でゼミ紹介を終わります。

## (中尾ゼミ)

中尾ゼミでは、中尾好昭先生の指導のもとで、各種の実験、解析を卒業研究テーマとして活動しています。主な研究内容としては、法隆寺金堂の地震応答解析、法隆寺金堂の柱剛性に関する相似模型実験、高強度コンクリートの調合に関する研究、鉄骨造高層建物の相似模型による風洞実験、基礎地盤系の振動実験、鉄骨模型の耐久実験解析、PC化階段の模型実験解析などがあります。

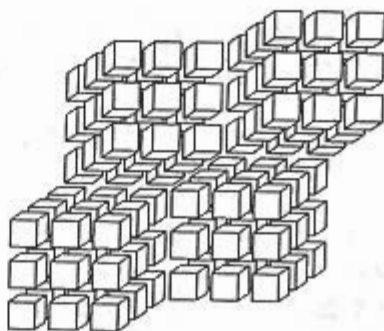
現在、このようなテーマをもとに各ゼミ員がそれぞれ実験、解析を繰り返しおこない、できるだけよい結果が得られるようにと努力

している最中です。今後も引き続き卒業研究に力を注いでいこうとゼミ員全員が頑張っています。

## (高松ゼミ)

我々、高松ゼミでは、建築鋼構造設計法に関する研究を行っています。現在行っている主な研究テーマは、スプリットティ接合部の変形性状に関する実験的研究や、不補強柱・梁接合部の復元力特性に関する研究、接合部パネルの変形を考慮した弾塑性地震応答解析、また汎用構造解析プログラム「ADINA」による解析などを行っています。

また、我々の高松ゼミでのおもな就職先が、施工管理ということもあって、体力作りにも励んでおり、広大対抗駅伝や、三宅駅伝などにも積極的に参加しております。こうした課外活動や、飲み会（内定祝い、歓迎会、新・忘年会など）をひらくことで、ゼミ生1人1人のキャラクターなどを、みんなで理解することができ、ゼミ内は、とてもあかるく良い雰囲気です。



## (佐藤立美ゼミ)

私達は、鉄筋コンクリート構造物の実験。解析、そして開発に関する研究を行なっています。方針として、ゼミ生一人一人が、互いの実験について理解し、鉄筋コンクリートについて、広い視野で見ることができるようにと、実験から全員で行ない、柱や梁という単独のテーマというものを、一つのRC構造物という文章に、そして建築という小説を完成しようと日頃から計画を練り、日夜作業に取り組んでいます。

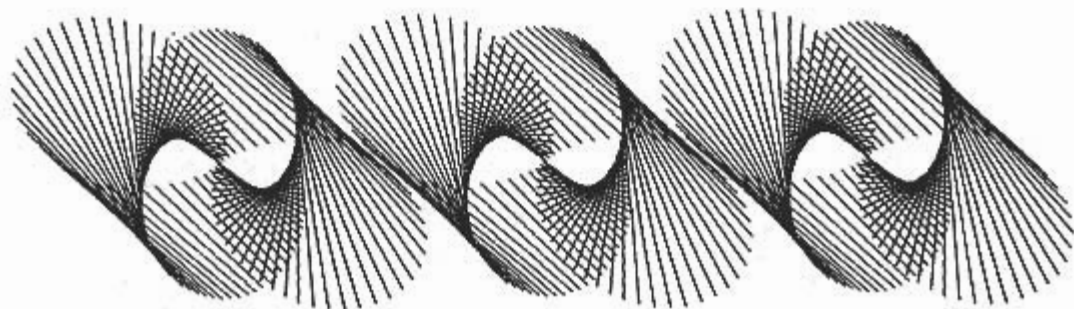
我ら佐藤立美ゼミは、先生の人柄からまともりが良く、家族という雰囲気さえ漂い出しています。大黒柱の佐藤先生を筆頭に、ゼミ生11名がみなお酒好きであり、新親から誕生会、そして打ち上げ会、はたまた急な飲み会などという通称“飲みゼミ”としても知られています。私達、ハングリーな佐藤ゼミは、工大祭や、球技大会などに参加し、学問だけでなく、スポーツやお酒など文武(酒)両道を目指しています。

## (福田ゼミ)

福田ゼミでは、設計班、研究班に分れ、各自が興味のある研究テーマを決め、論文に取り組んでいる。

設計班では、「人間性を回復する建築とはどういうものか」(人間と人間をつなぐ空間、情報社会の中で人類が共存してゆくために)、「自然環境との共存をテーマとした提案」(使命を終えた工場地帯の再生、松江市民にとっての宍道湖)、「町づくり」(町のにぎわい、居住地、高齢化をふまえた町の施設)をテーマにし、対象地域を決め、現地調査をし、その地域が発展するための設計を行っている。

研究班では、「公営住宅に関する研究」、「海浜施設、商業施設に関する研究」、「左官業に関する研究」、「離島の集落形成と地方都市との交流に関する研究」をテーマにし、研究対象を決め、ヒアリング調査、アンケートなどを行い、それらの調査結果を基に分析し、論文にしている。私達、福田ゼミは、福田先生のもとに、みんな和気満々研究しています。



# 1997年度卒業者就職先等一覧表

## (環境デザイン学科)

氏名	企業名	氏名	企業名
川川山井田能下田貫田村本田名 聡子上貫地下村木岡河野杉西井木田口 松口中中辺井力條田谷村村田本田 高野野本尾近笠本田		川田川下田田野原槻永野村村田谷内泉井同井田田西部元谷森子村本下成島岡原原戸玉川森田田 橋本内辺 久島口越賀西村尾 田	
間阿石犬今今伊岩内大岡岡岡奥奥寛門金川木北木木清国黒河小小坂佐澤関高高田竹田田玉長東中中西信橋羽原日平廣古楨政松松光		宮矢山山山山吉吉氏大富中中新荒池和今伊岩宇大大岡沖鍛鍛金河岸木清葛黒桑桑越兎追貞島園高高滝竹田谷長津戸鳥中中長林原	
子英史努伸平紀之太伸示典二久勤則徹孝崇二文英紀子介知嗣久子康香三志樹樹彦司維創和泰治洞義さみ之行郎典宏子司子音治司昭		恵一史明輝史和利作輔郎哉晃志史美子紀子幸洞隆子美威一夫保隆子征史二子晶子明春也子保一真子三司悟仁司功典郎平助明彦子夕典	
葉繪俊陽 幸周友智健英英慎和 次 佳仁真稔朝美奈大佐真智佐文知慶得英博道隆俊 豊友誠 武ちあ正隆健正高靖 智朱和浩一		和幸倫俊和武美英大裕洋一 寿唯治由宏智一 将真良皇太紀 義範竜龍龍智千久武美達明美智 優桂洋敬 健知正秀洋大伸智令真英	





# [広島工業大学建築・環境系教職員名簿]

## 〔土木工学科 建築工学コース〕

氏名	住	所	郵便番号	電話番号
中尾好昭	教	授		
佐藤立美	"	"		
高松隆夫	"	"		
浅野照雄	助	教授		
福田由美子	講	師		
大林真	技	術職		

## 〔環境学部 環境デザイン学科〕

門田博知	教	授		
田頭良子	"	"		
丹羽博亨	"	"		
水田一征	"	"		
篠原正道	"	"		
椋代仁朗	"	"		
森保洋之	"	"		
坂田泉	"	"		
光易恒	"	"		
東元定雄	"	"		
喜久川政吉	"	"		
天野實	"	"		
神田隆至	"	"		
菅原辰幸	"	"		
菅林芳正	"	"		
小田昌弘	"	"		
高中本山登	"	"		
中田山代勝	"	"		
大田内嘉和	"	"		
佐藤藤加	助	教授		
西川加	"	"		
横田加	"	"		
伊勢野薫	"	"		
中野村隆夫	"	"		
野添久祝	"	"		
廣川協一	"	"		
清田誠良	"	"		
西垣安比古	"	"		
手越義昭	"	"		
三好孝治	講	師		
三村泰臣	"	"		
熊谷啓子	"	"		
平田圭	助	手		

# 五 三 会

# 活 動 報 告



幹事長 山野正晴

「五三会」会員各位様におかれましては、益々の御活躍のこととお喜び申し上げます。

今年度「五三会」は、会員相互の交誼をより厚くするため平成8年度より施行になりました顕彰制度による会員および在学生の表彰という新しい試みのもとに総会・記念講演会・懇親会と年末の忘年会をそれぞれ行ない、懇親のみにとどまらず建築および環境を軸とした部分での交流がはかれ、意義深いものになったと思っています。またこれにより賞を受賞された方々と共に喜べる場面が設定され、より一層の会員相互の連帯感ができたのではと感謝しております。又例年の恒例事業としても、ゴルフコンペ、競技設計、「五三会」会報誌の発行と各事業委員会もがんばっております。なかでも今年度の競技設計の応募が30点もありその評価も含め大変喜ばしいයි。また「五三会」会報誌の編集も若いメンバーも加わりより楽しい委員会になりつつあると同時によりフレッシュな情報とともに編集、発行と進んでいます。

今後とも「五三会」活動として会員各位の御理解、御協力ならびに御参加のほど宜しくお願いいたします。最後に「五三会」活動にご協力していただいた方々に心よりお礼を申し上げます。特に競技設計の審査をこころよく引き受けて下さった広島大学の丹羽先生には、感謝申し上げますとともに今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

## 平成9年度活動報告

1. 総会・講演会・懇親会の開催
2. 会報誌「五三会」第25号の発刊
3. 第24回「五三会」建築設計競技の実施
4. 「五三会」会員の増強
5. 在学生との交流活動
6. 「五三会」ゴルフコンペの開催

## 平成9年度役員

- (会 長) 中島伸夫【株式会社環境設計事務所】  
(副 会 長) 森田洋生【広島市役所】  
梶山孝之【梶山設計室】  
(会 計) 松本孝志【広島市都市整備公社】  
木下知夫【街創造建築設計社】  
(会計監査) 金川 豊【広島市役所】  
神垣聡志【街フォルテ建築研究所】  
(書 記) 松本文子【広島市役所】  
小瀧宏治【株式会社近代設計コンサルタント】  
(幹 事 長) 山野正晴【株式会社アトリエUD】  
(幹事長補佐) 三島久範【株式会社デザイン総研広島】

「五三会」は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員の方に会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及び未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。

下記「五三会」事務局へご連絡下されば振込用紙を送らせていただきます。

## 【「五三会」事務局】

広島市佐伯区三宅2丁目1-1  
広島工業大学環境学部環境デザイン学科  
菅原研究室内  
〒731-51 TEL082-921-3121

# 五三会収支決算報告

## 平成9年度収支決算報告

(平成10年3月1日現在)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	6,039,526	
新会員会費	1,303,410	
利息収入	715	
合 計	7,343,651	
◆支出の部		(単位 円)
会議室	61,081	
バイト費	42,000	
印刷費	67,850	
金融機関手数料	1,285	
雑費	4,021	
会報誌印刷費	979,310	(24、25号分)
会報誌郵送費	185,820	(24号)
設計競技費	301,505	
総会負担金	114,222	
郵送費	82,190	
予備費	251,530	
繰越金	5,252,837	
合 計	7,343,651	

## 平成10年度収支予算(案)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	5,252,837	
新会員会費	1,300,000	
広告料	800,000	(24、25号分)
合 計	7,352,837	
◆支出の部		(単位 円)
会議費	70,000	
バイト費	21,000	
印刷費	55,000	
金融機関手数料	2,000	
雑費	10,000	
会報誌印刷費	530,000	(26号)
会報誌郵送費	200,000	(25号)
設計競技費	470,000	
新入会員歓迎費	70,000	
予備費	100,000	
繰越金	5,824,837	
合 計	7,352,837	

(備考) ●会報誌印刷費及び新入会員案内状については、年度内に支出する様に改訂しました。  
●広告料の収入については、次年度に入金予定です。

# 建築学科記念事業基金収支決算報告

## 平成9年度収支決算報告

(平成10年3月1日現在)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	2,092,463	
利息収入	737	
合 計	2,093,200	
◆支出の部		(単位 円)
雑費	273	
総会援助費	221,636	
在学生交流費	68,500	
在学生助成金	100,000	
繰越金	1,702,791	
合 計	2,093,200	

## 平成10年度収支予算(案)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	1,702,791	
合 計	1,702,791	
◆支出の部		(単位 円)
雑費	10,000	
在学生交流費	100,000	
在学生助成金	150,000	
繰越金	1,442,791	
合 計	1,702,791	

## 平成10年度総会のお知らせ

日 時	平成10年4月25日(土) 1. 五三会総会……午後4時 2. 工大同窓会……午後4時30分 3. 懇親会……午後6時
場 所	「五三会」総会 広島市中区中島町5-7 鶴学園広島校舎 TEL082-249-1251(代) 工大総会・懇親会 広島市中区大手町1丁目5-3 鯉城会館(広島県民文化センター) TEL082-245-2311(代)
懇親会会費	5,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。(当日御持参下さい。)

# 広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学工学部建築学科・同土木工学科建築工学コース・環境学部環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行う。
- (1) 集会
  - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関すること
  - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
  - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
  - (5) 会員の功績に対する顕彰
  - (6) その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生(大学院を含む)のうち会費を納入した者
  - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築・環境系卒業生  
広島工業大学建築・環境系在学学生(大学院生を含む)
  - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
  - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- |           |          |           |    |
|-----------|----------|-----------|----|
| (1) 名誉会長  | 置くことができる | (2) 会 長   | 1名 |
| (3) 副 会 長 | 2名       | (4) 会 計   | 2名 |
| (5) 会計監査  | 2名       | (6) 幹 事 長 | 1名 |
| (7) 幹 事   | 若干名      | (8) 書 記   | 2名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
  - (2) 会長・副会長・幹事長・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
  - (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する

- 第 8 条 各役員はそれぞれ求の任務を持つ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
  - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
  - (3) 会 計 会計事務に当たる
  - (4) 会計監査 会計を監査する
  - (5) 幹 事 長 会務を主宰する
  - (7) 書 記 書記事務に当たる
- 第 9 条 役員任期は一ケ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧 問

- 第 10 条 この会に顧問は若干名をおく。
- (1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
  - (2) 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会 議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が召集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
  - (2) 決算及び予算
  - (3) 事業委員会の組織
  - (4) その他緊急事項の協議
- 第 14 条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
  - (2) この会の運営に関する諸事項
  - (3) 事業委員会の組織
  - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会 計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。  
正会員は終身会費として、入会時に 10,000 円を納入しなければならない。
- 第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

#### 第七章 委 任 事 項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

#### 付 則

本会則は、平成 8 年度から施行する。  
旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

## 編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

編集委員も新メンバーを加え、一段と充実した内容を皆様にお届けできるよう頑張りました。

編集作業のために同級生や後輩たちと集まって、近況を話したり、たまには作業を忘れて飲んで…忘年会をした時は久しぶりにあんなに飲んだよなんて後で笑ってしまうくらい、大変な中に楽しいこともありました。

私は在学中から五三会のメンバーとの交流があり、また地元広島に就職したこともあり卒業生とかかわる機会が多く、同窓会（五三会）が常に近くに存在していました。

五三会を外から見たことがないため、皆様にとっての五三会の存在がどのようなものなのかわかりません。

大学の変化に伴い、五三会も変化してきましたが、私達の同窓会であることにいつまでも変わりありません。

ちょっとのぞいてみたいと思った時は、気軽に声をかけてみて下さい。

いつでも歓迎してくれます。

また、会報誌にこんなことをのせてほしいこんなことが知りたいというようなことがあればご連絡下さい。

尚、寄稿下さった方には、五三会より記念品をお送りいたします。

### 「五三会」第25号 編集委員

寺尾 慈子(H4) 沖野 友康(H9)  
高野 栄一(H4) 三好 征一(H9)  
原尻 正(H4) 長田桂代子(H9)

### 〔連絡先〕

五三会事務局  
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号  
広島工業大学環境学部環境デザイン学科  
菅原研究室内  
(〒731-51) ☎082-921-3121代

### 広島工業大学建築・環境系同窓会会誌 「五三会」第25号

編集責任者 寺尾 慈子  
発行責任者 中島 伸夫  
企画・製作 ハローデンイン  
発行 平成10年3月